

原 俊雄
HARA Toshio

■ 専門分野

会計学分野・財務会計

■ 指導可能な研究テーマ

簿記及び財務会計の理論・制度・歴史

■ 過去に指導した学生の修士論文題目

【2017年度】

明治・大正期における複式簿記啓蒙活動についての研究

【2016年度】

謝・孟『銀行簿記学』（1907）の研究

【2015年度】

統合報告書の事例分析－統合報告書の「アクセシビリティ」に着目して－

【2013年度】

ペンマン会計理論の研究－価値評価のための会計を中心に－

【2010年度】

収益認識基準の展開に関する一考察

研究開発費の取り扱いについて－基準比較とケーススタディー－

【2008年度】

米国連邦政府の会計制度に関する一考察

【2006年度】

非営利組織体の会計に関する日・韓比較研究－学校法人会計を中心に－

【2005年度】

キャンピング「会計の経済学」における会計諸概念ならびにファイナンシャルポジション

収益認識に関する一考察

【2002年度】

「複式簿記の拡張可能性に関する一考察」－井尻学説を手がかりにして－

■ 修士論文作成のための必読文献リスト

研究テーマ及びこれまでの修学状況によって異なるが、最初の二冊の文献は必読

桜井久勝（最新版）『財務会計講義』中央経済社.

小熊英二（2022）『基礎からわかる論文の書き方』講談社現代新書.

中村忠・大藪俊哉（1997）『対談・簿記の問題点を探る〔改訂版〕』税務経理協会.

安平昭二（1992）『簿記 その教育と学習』中央経済社.

Richard G. Schroeder, R. G., M. W. Clark, and J. M. Cathey (2022) *Financial Accounting Theory and Analysis: Text and Cases, 14th ed.*, Wiley（加古宜士・大塚宗春訳（2004）『財務会計の理論と応用』中央経済社）.

Scott, W. R. and P. C. O' Brien (2020) *Financial Accounting Theory, 8th ed.*, Pearson（太田康広・椎葉淳・西谷順平訳（2022）『新版 財務会計の理論と実証』中央経済社）.

Littleton, A. C. (1933). *Accounting evolution to 1900*, American Institute Publishing Co.（片野一郎訳（1978）『リトルトン会計発達史〔増補版〕』同文館）.

■ 修士論文作成に向けた履修推奨科目

簿記原理特論

財務会計特論

管理会計特論

国際会計特論

原価会計特論

税務会計特論

経営財務特論

定性研究法特論

■ 博士課程後期での研究指導実績

【過去に指導した学生の博士論文題目（学位取得年月）】

該当なし

■ その他

指導教員は概念的・定性的研究を専門としています。定量的研究は指導しません。

指導教員の業績、経歴等は下記にあります。

https://er-web.ynu.ac.jp/html/HARA_Toshio/ja.html